



2026年2月5日

各 位

会社名 株式会社フレクト
代表者名 代表取締役CEO 黒川 幸治
(コード番号: 4414 東証グロース)
問い合わせ先 執行役員ファイナンス 河田 紘史
&アカウンティング本部長CFO
TEL. 03-5159-2090

通期業績予想の修正並びに特別損失（関係会社株式評価損）計上の見込みに関するお知らせ

当社は、2026年2月5日開催の取締役会において、2025年5月8日に公表しました2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 2026年3月期通期業績予想の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	9,600	1,429	1,424	863	142円34銭
今回修正予想（B）	8,237	1,204	1,202	644	104円88銭
増減額（B-A）	△1,362	△224	△221	△219	
増減率（%）	△14.2%	△15.7%	△15.6%	△25.4%	
（参考）前期実績 (2025年3月期)	7,949	1,085	1,081	720	118円81銭

2. 修正の理由

当第3四半期会計期間において、旺盛なDX支援の需要を背景に、過去最高の第3四半期売上高を達成しました。

提案体制強化の活動が一部の既存顧客との取引拡大に繋がり、四半期売上高が50百万円以上の顧客数が13社（前年同期は10社、前四半期は10社）となりました。一方で、既存

顧客取引の拡大は実現しているものの、第1四半期からの売上進捗の遅れをリカバリーするまでの増加には至らず、通期売上高予想 9,600 百万円の達成が困難として、売上高の見通しを引き下げました。

売上総利益率は、オペレーションの徹底による健全なプロジェクト運営及びエンジニアのアサイン最適化、社内 AI 活用を通じて高水準を実現し、販管費も一部抑制しておりますが、売上高の減少は補えず営業利益の見通しも引き下げました。

なお、「3. 関係会社株式評価損の計上見込みについて」に記載のとおり、当社が保有する関係会社株式の評価損を計上する見込みのため、特別損失として 102 百万円を織り込んでおります。

以上の状況により、通期業績予想を修正いたしました。

3. 関係会社株式評価損の計上見込みについて

当社が保有する関係会社株式（株式会社キャリオット）について、当社が見込んでいたより大口案件の獲得に時間を要しており、当社見込み数値との乖離が発生していることから、当第4四半期会計期間において最大で 102 百万円の評価損を計上する見込みです。結果につきましては、確定次第あらためてお知らせします。

※ 本資料に記載された業績予想は、本資料の日付時点において入手可能な情報による判断及び前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上